

みんなでつなぐ

ダム水源地ネット

2001.6月号

6

散歩道

転ばぬ先の杖

こちらダム水源地

「蜂の巣湖桜まつり」の模様について ほか

地域活性化レポート

豊かな水と自然を活かす

情報ホットライン

「緑のダム」について(その1)



釜房ダム

歴史が交差するまち、川崎町



目次

今月の水源地

釜房ダム
歴史が交差するまち、川崎町 —— 2

今月の行事 —— 4

散歩道(バセオ)

転ばぬ先の杖 中川博次 —— 5

ワンポイント・ゼミナー

これからの水災防止対策 —— 6

こちらダム水源地

「蜂の巣湖桜まつり」の模様について —— 8

第8回 白樺祭り開催 —— 9

岩尾内湖白樺キャンプ場に管理棟完成 —— 10

山の学校 達っちゃんクラブ —— 11

地域活性化レポート

豊かな水と自然を活かす —— 12

情報ホットライン

「緑のダム」について(その1) —— 14

トピックス —— 16

〔今月の表紙〕

釜房ダム ダム湖パトロールの体験

編集事務局：財団法人 ダム水源地環境整備センター ダム広報センター

所在地：〒102-0083 東京都千代田区麹町2-14-2

TEL 03-3263-9051 FAX 03-3263-9085

http://www.wec.or.jp/

E-mail:koho@wec.or.jp

宮城県川崎町は、県の南西、山形県との県境に位置し、蔵王連峰に属する山岳丘陵の盆地からなる町です。

釜房ダムは、洪水調節、河川環境の保全、工業用水及び仙台都市圏の水瓶として、また発電を目的に、小松倉深谷を塞ぎ止め昭和45年3月に完成した総貯水容量4530万m³のダムです。中央に釜房大橋が架かり、その橋から展望できる湖面に映った四季折々の風景がとても美しいダムです。

周辺には、釜房湖の豊富な水、丘陵の緑、蔵王連峰の素晴らしい展望など自然の景観に恵まれた環境を利用し、全国で10番目、東北で初めての国営公園「国営みちのく杜の湖畔公園」が平成元年に誕生し、広域的レクリエーションの場として年間約40万人の入園者でにぎわっています。

また、藩政時代に伊達家の御殿場であった青根温泉、胃腸病に効く日本三大名湯の一つ峨ヶ温泉など、出湯の町川崎ならではの温泉

が数多くあります。

そのほか、藩主伊達政宗の命を受けて慶長の遣欧使節としてイスパニア、イタリアを訪れた支倉常長を、郷土が生んだ国際交流の先覚者として称え、毎年「支倉常長まつり」を開催しています。

四季折々の澄んだ風に触れ、心を癒すことができる豊かな歴史のまち、川崎町へ是非一度お越しください。

川崎町のおみやげ
川崎町のイベント
交通

久光彫り、青根こけし、そば、そばカステラ、舞茸
支倉常長まつり、影を慕いて歌謡コンクール、全国大会、青根温泉書あかり
仙台から 東北自動車道から山形自動車道宮城川崎ICより約30分
山形から 山形自動車道宮城川崎ICより約30分

宮城県川崎町企画財政課 小原 則夫
(☎ 〇三二四 八四 二二二)

6月

《東北》

10日(日)~7月10日(火) / あやめまつり (場所: 山形県長井市)
 主催 / 山形県長井市・観光協会【☎0238 - 84 - 2111】
 内容 / 長井市民の花である「あやめ」500種100万本が市内のあやめ公園に咲き競う。茶会、カラオケ大会、モデル撮影会なども行われる。長井市には長井ダムを建設中。

下旬~7月上旬 / あやめまつり (場所: 岩手県東和町)
 主催 / 同実行委員会 内容 / 約20万株のアヤメ。郷土芸能。
 【東和町商工観光課☎0198 - 42 - 2111】
 東和町には田瀬ダムがある。

《関東》

9日(土)~30日(土) / 名草ホテルまつり (場所: 栃木県足利市名草ホテル養殖池) 主催 / 名草源氏ホテル保存会
 内容 / ホテルの乱舞のピークは午後7時半~9時。幻想的な風景を堪能できる。【足利市名草公民館☎0284 - 41 - 9977】
 足利市には松田川ダムがある。

17日(日) / 塩原フラワーウェディング (場所: 栃木県塩原町)
 主催 / 塩原温泉観光協会【☎0287 - 32 - 2512】
 内容 / もみじ谷大吊り橋で合同結婚式を行う。
 塩原町には塩原ダムがある。

27日(火) / 千葉県水道局の浄水場見学会 (場所: 千葉県市原市福増浄水場、高滝止水場) 主催 / 千葉県水道局【総務広報課☎043 - 223 - 4500】
 内容 / 一般公募による参加者にダムと水道施設を見学してもらう。申込み終了。

《近畿》

17日(日) / 吉野魅惑体験フェスタ川上村・中井溪谷自然塾 (場所: 奈良県川上村東川) 主催 / 同実行委員会 内容 / 水生生物のお話、フィッシング教室、等。【川上村役場企画課☎07465 - 2 - 0111】
 川上村には大滝ダムを建設中。

23日(土) / 魅惑体験フェスタ川上村・湯っくり歩こう (場所: 奈良県川上村下多古・湯盛温泉) 主催 / 同実行委員会 内容 / 下多古の琵琶の滝ハイキングと湯盛温泉入浴。申込み終了。
 【川上村役場企画課☎07465 - 2 - 0111】

《中国》

上旬 / 千代川流域圏会議 (場所: 未定) 主催 / 千代川流域圏会議事務局【鳥取工事事務所☎0857 - 22 - 8435】
 内容 / 千代川を軸として地域の交流、連携を図るとともに、流域全体の広い視点に立って、千代川をよりよくするための取り組みや地域活性化への取り組みを行う。千代川流域には三滝ダム、佐治川ダム、茗荷谷ダム、美歎ダム、百谷ダム等がある。また殿ダムを建設中。

中旬 / 苫田ダム貯水池一斉清掃 (場所: 岡山県奥津町)
 主催 / 花と緑の一里塚実行委員会 内容 / 水没予定地の美化運動の一環として、国土交通省・奥津町・鏡野町・工事関係者により、ゴミ収集等を行う。
 【苫田ダム工事事務所☎0868 - 28 - 2544】

5日(火)~28日(木)(火)(木) / 土師ダム周辺奉仕活動 (場所: 広島県八千代町) 主催 / 八千代町老人クラブ連合会
 内容 / 土師ダムサイクリングロード沿いに整備しているアジサイの剪定、草取りを行う。
 【八千代町社会福祉協議会☎0826 - 52 - 2976】

《九州》

10日(日)~7月10日(火) / 第13回見帰りの滝あじさいまつり (場所: 佐賀県相知町) 主催者 / 同実行委員会 内容 / 世界の

あじさい展、絵手紙教室、コンサート、3on3大会、スケッチ大会、俳句会、あじさいギャラリー展。

【相知町企画情報課商工観光係☎0955 - 62 - 2111】

21日(木) / 野津ダム竣工式 (場所: 大分県野津町) 主催 / 大分県
 内容 / 竣工式典。

【竹田ダム建設事務所☎0974 - 62 - 4123】

7月

《北海道》

14日(土) / 森と水辺でリフレッシュ~うらら湖で遊ぼう (場所: 北海道浦河町) 主催 / 浦河町ふるさと体験活動実行委員会
 内容 / 浦河ダム施設見学、くんせい作り、等。

【浦河町立郷土博物館☎01462 - 8 - 1342】

14日(土)・15日(日) / 親しもう僕とわたしの様似ダム ふれあい少年少女キャンプ大会 (場所: 北海道様似町) 主催 / 様似町子供会育成連絡協議会 内容 / ダム施設見学、クイズ大会、川遊び、各種イベント。

【様似町教育委員会☎01463 - 6 - 2521】

《関東》

7日(土)~11日(水) / 第2回ぐんまウォーターフェア (場所: 群馬県庁1F県民ホール) 主催 / 群馬県 内容 / 森林、水に関するパネル、写真等の展示。

【群馬県地域整備課☎027 - 223 - 1111(代)】

《中部》

1日(日) / 2001年いび川世界アユ釣り大会 (場所: 岐阜県坂内村) 主催 / 同実行委員会 内容 / 世界アユ釣り大会、予選、決戦。申し込み終了。

【坂内村観光係総務課☎0585 - 53 - 2111】

《近畿》

1日(日) / ほたる探訪 (場所: 京都府美山町) 主催 / 音海区・大野ふるさと振興会【☎0771 - 75 - 0332】
 内容 / 地元音海区と共催でホテルの生態・環境を学習し、ホテルの乱舞を楽しむ。美山町には、大野ダムがある。

《四国》

1日(日) / 第6回川の日吉野川スポーツ交流大会 (場所: 高知県綾北地域) 主催 / 四国三郎(吉野川)ふれあい会議 内容 / 吉野川の水源地域と受益地域の人々がスポーツ(ソフトボール、バレーボール、Eボート等)を通して交流を深める。
 【吉野川ダム総合管理事務所☎0883 - 72 - 3000】

平成13年度 ダム水源地活性化支援事業
 支援対象活動団体を募集しています。

申請書提出期限

平成13年7月14日

問い合わせ・申告書提出先

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-14-2 麹町NKビル
 TEL: 03-3263-9925
 FAX: 03-3263-9922

財団法人 ダム水源地環境整備センター
 担当 調査第一部 小笠原・上村

転ばぬ先の杖

中川 博次

立命館大学理工学部 教授



神戸市内を流れる新湊川では、平成10年と11年の相次ぐ洪水の氾濫によって甚大な浸水被害が生じた。先の災害の経験で、出水時の予警報の改善や水防訓練が行われたにも関わらず、避難勧告に応じた住民は5名に過ぎなかった。地域住民の危機意識とは別に、日頃の情報活動や市民参加の水防体制の強化の必要性が痛感された。

ライン河でも1993年、1995年の2度の大きな被害に見舞われたが、95年の洪水では、オランダの堤防の危機に直面して数十万の沿川住民が避難し、ケルン市では93年とほぼ同じ水位上昇を見たのに、被害は半分に留まった。これには、93年の洪水後のライン保護委員会による水害のビデオテープの作成、年4回のニューズレターの発行、インターネットによる住民との情報交換など徹底した広報活動が、住民の防災意識の高揚に果たした役割が大きい。いま、関係5ヶ国が氾濫・洪水予報を含む洪水防衛の段階的プログラムを国や地域を越えて実行している。

短時間に急激な出水をみるわが国の河川では、洪水の危険性は極めて高い。河川利用者が増加している現在、有効な洪水防衛施設の整備とともに、各河川の実情に即した実効性ある予警報や避難情報の伝達を図り、日頃から河川やダムに関する分かり易い情報を提供して住民参

加を促す施策の展開が望まれる。

本年4月に、国土交通省で「新しい時代のダム管理を考える研究会」が発足し、ダムの放流警報・情報提供、管理方式、既存ダムの有効利用についての検討が進められており、その成果



が河川を取り巻く環境の変容に対処できる施策につながることを期待している。

「転ばぬ先の杖」というが、「転んだ後のつけ」が莫大なものにならないことを切に願うものである。

これからの水災防止対策

国土交通省河川局治水課

1 近年の水災

平成12年は、我が国の水災防止に関する政策を考えると、大きなエポックとなる年でした。

先立つ平成10年には福島県郡山市の1万世帯が避難しハザードマップの有効性が実証された阿武隈水害や、高知市において2万3千戸が浸水した国府川の氾濫をはじめ各地で水害が相次ぎ、平成11年には中小河川の氾濫に加え、福岡市と東京都で地下室の浸水により死者が出て、新たな都市型水害として注目されました。

そして、平成12年9月11日から12日にかけて、名古屋市中心とする記録的な豪雨によって発生した東海水害は、5万5千戸を超える浸水被害と、新幹線や地下鉄など交通機関の麻痺、ライフラインの停止など、総額8、500億円の被害をもたらし、いまいちど原点にかえって、これまでの水災防止対策について見直し、これからの水災防止対策のあり方について考える必要性を迫るものでした。

このような近年の水災の現状を受けて、平成12年9月から12月にかけて、「都市型水害対策に関する緊急提言」及び河川審議会答申「今後の水災防止の在り方について」の2つの重要な提言がとりまとめられました。

国土交通省では、これらの提言を踏まえて、

法改正を含め、水災防止対策の充実・強化に必要な施策を推進していくこととしています。

2 都市型水害への備え

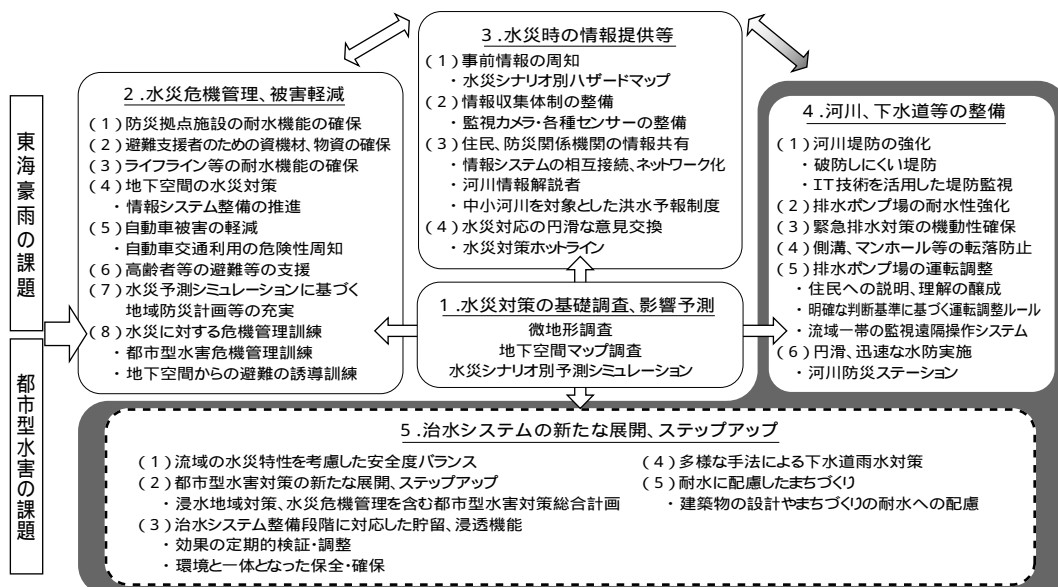
都市部においては、地下空間の利用も含め土地の高度化が進展する一方、都市化に伴う雨水の流出率の増大や流出速度の増加等の要因もあって、洪水が発生した場合に起こりうる被害のポテンシャルは増大しています。

このようなことから、建設省（当時）では、都市型水害緊急検討委員会を設置して、都市部及びその周辺地域において、東海水害に匹敵するような激しい豪雨が生じた際に、重大な被害を生じさせないための方策について、検討を行いました。

平成12年11月9日にとりまとめられた緊急提言の概要について図1に示します。

ここでは、緊急的な対策として、都市の浸水常襲地域における微地形調査や内水を含む浸水予測シミュレーションを踏まえた、(1)避難者支援のための資機材、物資の確保やライフラインの耐水化などの水災危機管理、被害軽減、(2)水災シナリオ別のハザードマップの作成や情報システムの整備やネットワーク化による水災時の情報提供等、(3)破堤しにくい堤防整備や排水ポン

図-1 都市型水害対策に関する緊急提言の構成



ブ場の耐水性強化と適正な運転調整など河川、下水道の整備などを行うよう提言しています。

3 新たな水災防止体制について

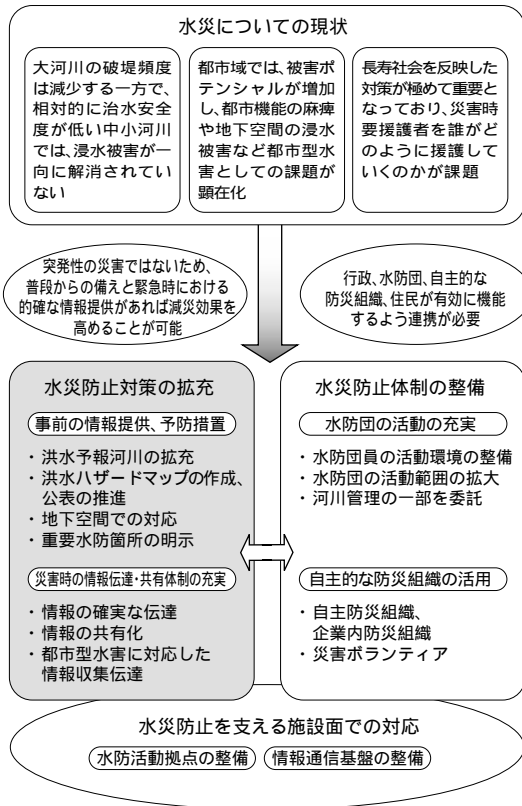
これまで水害対策としては、治水事業の推進とあわせて、水防団の活動を中心とした水災防止対策が洪水被害の軽減に大きく貢献してきました。しかし、最近の短期集中型豪雨の頻発や地下街浸水などから、これまで以上に迅速かつ確な対応が要求されるほか、就業構造の変化によるサラリーマン水防団員の増加、災害関係情報の充実、情報通信技術の著しい高度化など、水災防止対策をとりまく環境は大きく変化しています。

このような社会経済状況等の変化に対応した新たな水災防止対策の展開が求められている現状に照らして、水災防止活動の充実、都市型水害への対策など水災防止における今日的な課題に対応するため、平成12年9月、建設大臣（当時）から河川審議会に対して、「今後の水災防止の在り方について」諮問がなされました。

同年12月19日、河川審議会から出された答申の概要について図 2 に示します。

- 答申では、今後の水災防止の方向性として、
- (1) 事前の情報提供や災害時の情報伝達・共有体制など水災防止対策の拡充
 - (2) 水防団の活動環境の整備や自主的な防災組織の活用など水災防止体制の整備
 - (3) 水防活動拠点の整備
- など水災防止を支える施設面での対応の3つの柱に沿ってとりまとめています。

図 - 2 「今後の水災防止の在り方について」答申の構成



4 水防法の改正について

これからの水災防止を考えると、治水事業が一定の完成をみるまでの間、発生しうる河川の氾濫から住民を守るためには、事前の情報提供と円滑かつ迅速な避難誘導が極めて重要となります。

水災防止にかかる基本的な法律である水防法によって、これらの課題に対する施策を措置するため、現在、水防法の一部を改正する法律案を国会に提出しています。

本格的な改正としては約40年ぶりとなる水防

法の改正案では、(1)国土交通大臣に加え、新たに都道府県知事が、洪水により相当な損害を生ずるおそれがある河川を洪水予報河川に指定することにより、洪水予報河川を中小規模の河川まで拡充する、(2)洪水予報河川について、河川整備の計画降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を浸水想定区域として指定し、公表する、(3)地域防災計画において、浸水想定区域ごとに洪水予報の伝達方法、避難場所等を定める、(4)浸水想定区域内に地下街等の多数が利用する地下施設がある場合は、洪水予報の伝達方法を定める、などを主な内容としています。

今後とも、社会経済の変化に応じた確な水災防止対策を、国や地方自治体、そして地域住民などの適切な役割分担のもとに、実施していくことが求められています。



「蜂の巣湖桜まつり」の模様について
転出者、住民が一体となり開催！

大分県下笠ダム・蜂の巣湖は、昭和40年代日田郡筑後川上流域の津江川に洪水調節、河川環境の保全及び発電を目的として建設されました。

また、当地域は後々語り継がれることになるダム反対闘争の場となりました。当ダム建設により、道路、ダム周辺環境は着々と整備されましたが、水没住民らは近郊都市等へと移住されています。

当地域は、日田林業地域であり、かつて日田杉の一大生産地でありましたが、近年の林業不振に加えて、度重なる台風被害により、森林荒廃が目につくようになりました。



桜まつりの模様



勇壮な太鼓の響き

このようななか、ダム・水を通じた上下流交流事業の話が、ダム建設地区の有志を中心に盛り上がり、ダム管理事務所等と連携し、第一回「蜂の巣湖桜まつり」がダム湖畔の「下笠公園」で開催されました。「蜂の巣湖桜まつり」は地区自治会の中で実行委員会を設置し、福岡市、久留米市及び転出者等へも広く呼びかけ、実施に至りました。

桜の咲く4月上旬、ダム見学を終えた下流域住民が、会場に入場してきます。すでに地区民が用意した手作りバザーや農産物などが並べられ、太鼓が鳴り響きます。開会式の後、



春の下笠ダム

竹コップで乾杯。野外ステージでの楽しいアトラクションや、湖面での遊覧船、カヌー試乗など、短時間ではありますがありますが、交流会は盛大に行われました。地域では、この祭りにより、上流域の状況に少しでも関心を持つてもらい、共に水環境のため会話し続けようと考えております。参加者の一人は、初めて筑後川の水瓶を知り、感動し、水のありがたさを実感した、という感想を述べてくれました。

今後も、着実に努力し続け、つながりを深めてゆきたいと思えます。

大分県中津江村役場 産業課
坂田 泰成



布部ダム
島根県

第8回 白樺祭り開催 水質、植物、美しい環境を誇る、広瀬町

広瀬町は島根県の東端に位置し、700余年の歴史と共に、周辺の山麓にいだかれ城下町として栄えてきました。町の中央を飯梨川上流の富田川が流れ、月山富田城跡を中心に、数多くの史跡を残し戦国ロマンを満喫させてくれます。

鉄の道文化圏形成事業として

広瀬町の中心地布部は、古来豊かな砂鉄（玉鋼）の産地、随所に製鉄に関わる遺跡を数多く有しています。

昭和43年に完成した県営布部ダム（白樺湖）周辺において平成元年からふるさとづくり特別対策としてダム公園の整備事業が進められ、平成5年5月ダムに架かる吊り橋としては



白樺湖に架かる吊り橋



白樺祭りの模様

中国地方随一の白樺大橋が完成しました。これを記念して、余暇活動や地域間交流ふれあいの場として、毎年4月29日（緑の日）に「白樺祭り」を開催し、今年で8回目になります。演芸大会（郷土民謡・子供神楽・太鼓等）、モデル写真撮影大会、親子写生大会、食道楽コーナー等を設け、例年400余名の参加を得て実施、にぎわいを見せました。

良質水の供給、保全として

布部ダムは、周辺の花崗岩地帯深谷から四季を通して豊かな清流が流れ込み、近隣市町村（安木市、東出雲町・八束町・松江市）の水瓶として大切な役割を果たしています。快適な住環境造りを目指し、休憩施設



演芸大会

白樺ハウスのトイレは無放流型の浄化システムを導入し河川浄水化にも力を入れております。一昨年、全国県庁所在地飲料水のコンクールが行われ、常温では全国2位、冷蔵庫に入れた状態での審査では全国一位の評価を受けました。川の水質と景観に対する保全を、常に追求しつづけています。

植物の観察・森林浴散策の場所として
また、白樺湖周辺には春先から椿・マンサク・コブシ・桜など二次林を形成する植物が比較的多く、一方、本来この地で極相林を築いていくと考えられる珍しい植物も多く見られます。その素晴らしい自然を、子供や孫たちへ財産として継承していくことが私たちの使命の一つと言えます。

布部ダム公園管理運営委員会 会長
田村 俊



いわおない
岩尾内ダム
北海道

いわおない 岩尾内湖白樺キャンプ場に管理棟完成

（岩尾内ダム下流の朝日町で整備）

岩尾内ダムは、北海道開発局（国土交通省）で管理しており、道北部の一級河川天塩川上流の上川郡朝日町に位置し、洪水調節、かんがい用水・水道用水・工業用水の供給、発電を目的とした多目的ダムとして、昭和45年度に完成した。堤高58m、堤頂長448m、総貯水容量が1億770万トンの重力式コンクリートダムである。

このダムの完成で誕生した人造湖「岩尾内湖」では、例年水上バイク、モーターボート、カヌー、フィッシング

ング等の水上スポーツに利用されているほか、毎年7月には「森と湖に親しむ旬間」の一環として、実行委員会主催による「岩尾内湖水まつり」が開催されている。近隣市町村から多くの人々が訪れ、×クイズ、ダム見学会、歌謡ショーなどさまざまなイベントに参加している。

下流市町村の朝日町ではダム完成から約30年経た平成12年度、岩尾内ダム環境整備事業の一環で整備されたダム湖畔の白樺キャンプ場近くに同12年8月から管理棟を建設しており、12月に完成した。

管理棟は、木造平屋建てで、棟内にはキャンプ場利用客のためにトイレ、シャワールーム（4室）、ランドリー（洗濯室）、売店、ホールなどの設備が整備されており、今年度から利用開始されている。施設の利用可能な期間は、現在のところ融雪後の5月から降雪前までの11月末の予定である。

この施設は、モーターボート等アウトドアスポーツなどでの来訪者の他に、野外キャンプ場の利用者、北海道内外からドライブなどでダム湖を訪れる観光客など幅広い人々に利用されることが期待されている。

これから北海道は暖かい季節を迎え、アウトドアスポーツが盛んになる。岩尾内湖を訪れる多くの人たちが、これら施設を利用して、このとを、ダム湖周辺の利用活性化の上からも大いに望んでいる。



白樺キャンプ場管理棟



管理棟内（売店）



岩尾内ダムと岩尾内線

北海道開発局 旭川開発建設部 岩尾内ダム管理所 管理係

田中 和浩



おたき
大滝ダム
奈良県

山の学校達っちゃんクラブ 90本の植樹、開花に期待

奈良県吉野郡川上村。大台ヶ原の麓に位置し、吉野川（紀ノ川）の源流の村です。現在、大滝ダム建設工事が終盤を迎えており、村の姿も徐々に変わりつつあります。

山の達人「達っちゃん先生」こと辻谷達雄さんが、山仕事50余年の経験を基に「山の知恵」や「自然の大切さ・ふれ合い方」などを楽しく教えてくれるのがこの「達っちゃんクラブ」です。毎月1〜2回開催し、今年で4年目を迎え、毎回多くの都市の方々に参加いただいています。



達っちゃん先生

はじめは村の自然を楽しんでもらおうと山登りや、滝めぐり、山菜採りなどがメインでしたが、最近では参加者の要望に応えて、手作りのこんにやく、自然のつるなどを使ってのリース作り等の体験教室も取り入れていきます。

全て村の自然のなかで行い、木や水や植物、昆虫などにじかに触れて、緑や水を愛おしんでもらいたい、と「達っちゃん先生」は考えています。



早く大きくなあれ

毎回最後にアンケート調査を行い、いろんな参加者の声を聞いていますが、木を植え、育ててみたい、またいつでも自分たちが参加できる自分たちの森があればいいのに…、という声が聞かれるようになりました。

時を同じくして、「匠の聚」（川上村東川）という芸術家村の斜面に苗木を、という要望があり、早速、植樹会を計画。柿、桜、モミジ、コブシ、栗、クヌギ、ヤマモモの計90本を準備、晴天の3月24日、30名の参加者を得て植え付けを完了しました。皆



みんなで植樹

疲れのなかにさわやかな表情を浮かべ、キラキラした瞳が印象的でした。

現在、3月に植えた木々が少し成長しかわいい葉が見えています。

「早くヤマモモの実や柿の実を食べてみたいなあ」「いちばんに取りに来なきゃね」「花が咲いたら必ず見に来るね」「そのころには子どもたちも大きくなっていろいろだろう」そんな声が参加者のなかから聞こえました。

木や水を大切にして欲しいという「達っちゃん先生」の願いが、山村から都会の人々の心に少しずつですが浸透していくのを感じることができた一日でした。

財団法人 グリーンパークかわかみ
喜家村 玲子

豊かな水と自然を活かす

〜風のふるさと・きゅうちらぎまち〜



佐賀県厳木町
企画主任
白水 哲也

厳木町は、佐賀県のほぼ中央部に位置し、悠久の自然に恵まれています。瀬戸木場遺跡など縄文文化の遺跡をはじめ、多くの歴史と文化遺産を有し、古の詩歌に詠まれた佐用姫生誕の町とも言われています。大正年間には石炭で栄え、昭和27年に町制を施行。来年、平成14年には、50周年を迎えます。歴史のなかで、町民のたゆまぬ努力と郷土愛に支えられ農林業を中心として栄えてきました。みかんを中心に稲、野菜などの農業のほか、園芸作物の拡大にも努めています。昭和60年には九州最大の揚水式発電所が建設され、電力供給に重要な役割を担っています。また、古くから県内主要都市佐賀市と唐津市を結ぶ交通の要衝地としても発展してきました。

国道203号沿いの佐賀市と唐津市の中心地には、道の駅・厳木「風のふるさと館」があり、

道路や地域の情報、地元の特産品も得られる場として広く利用されています。

現在、厳木町は第一次産業の長期低迷による人口減、高齢化、情報化、国際化の進展等多くの課題に直面しており、「町民福祉の実現」のための確な対応と、個性と魅力のあるまちづくりが求められています。

清流・厳木川は、町の北東部を水源とし、浦川内川、浪瀬川、さらに下流の松浦川と合流し玄界灘に流れ込んでいます。中流に位置する厳木ダムは、洪水調節、河川維持用水、水道用水、工業用水及び発電の目的で建設された多目的ダムとして、きれいな水を下流へ流す選択取水設備を供えています。発電は、夜間の余剰電力を利用して下池（厳木ダム）から上池（天山ダム）へ水を揚げ、昼間ピーク時の電力をまかなう九州最大の揚水発電所です。厳木ダム周辺には、公園・遊歩道・グラウンド・キャンプ場、また天山ダム周辺には、水力発電のシステム紹介や電気づくり方等も体験学習できる「天山地下揚水発電所展示館」がハイキングコースの途



厳木ダム全景

中につくられ、無料で見学できる施設として開かれており、広大な自然を活かした「緑風館・天山スポーツ公園」といった宿泊施設等も整備され、町民を始め、県内外の皆様が自然を満喫できる憩いの場として利用しています。近年では、ダム周辺の厳しい谷あい位置する「音羽ヶ滝」への遊歩道や公園の整備を進めており、森林浴や涼を求める方々がさらに多くなると思われます。

ダム周辺での大きなイベントとして、ダム中央公園さよの湖グラウンドで毎年7月に行われ

る、厳木ダムさよの湖旗争奪少年軟式野球大会
があり、厳木川の恩恵を受ける流域市町村から
36チームが参加。当日は「森と湖」に親しんで
もらおうと、選手が川にコイ等を放流し、試合
後は河原で思い思いに遊ぶ姿が見られます。清
流・厳木川はアユやヤマメが多く生息し、魚の
解禁日ともなれば多くの釣り人が清流に釣り糸
を垂れています。

また、平成12年度からは全国のハーレーダビ
ッドソン愛好者の集い「ハートドリームミート
イング」の会場として多くのバイカーが訪れ、
本町の自然を満喫しています。

このような豊かな自然や清流のイメージをまち
づくりを活かそうと、毎年7月の夏休み最初の
日曜日に「きゅうらぎ川あゆまつり」が行われ



少年野球大会でのコイ放流



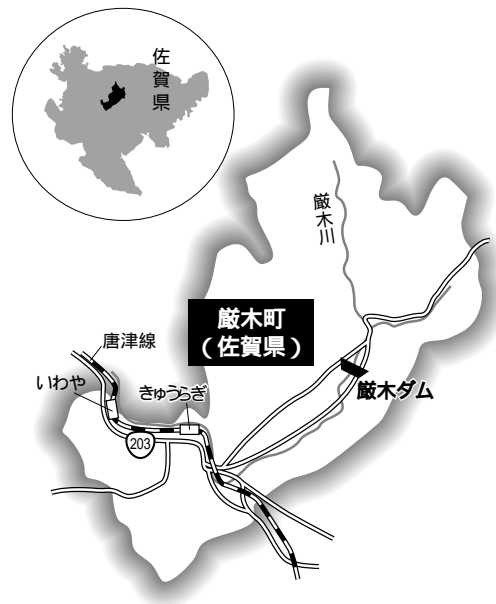
「きゅうらぎ川あゆまつり」

ています。これは、河川敷で川のせせらぎを聴
きながら、とれたてのアユ・ヤマメの炭火串焼
きと生ビールを楽しむイベントで、毎回700
0人程の参加がありにぎわいを見せています。

また、厳木町の良さを都市圏の方々知って
もらい、人的交流や農林産物などの販路拡大に
繋げようと、まちづくりグループ「厳木会」が
中心となり、あゆまつりのほか、「風のふるさと
まつり」等のイベントや、みかん狩りやいち
ご狩り、枝打ち・間伐作業を行う「親林交流隊」
等農林業を体験していただくバスツアーの実
施、都市圏での農林産物販売等が行われ好評を
得ています。

厳木ダム周辺での親水施設等の整備を促し、
さまざまなイベントや交流によって豊かな緑と

水をPRし、そこで育まれた魚や農林産物を多
くの人々に味わっていただく。このような連鎖
が、町内の産業的な発展のみならず、自分たち
が住むまちへの自信や誇りに繋がるものと考え
ています。



川遊びに訪れる人々



「緑のダム」について(その1)

国土交通省河川局治水課
課長補佐

桑島 偉倫

1 はじめに

我が国は、急峻な地形、梅雨期と台風期に豪雨が集中するという厳しい自然的条件にあり、一旦大雨が降ると河川に一気に水が流れ出して洪水をもたらす。一方、日照りが続けば河川に水が無くなり渇水が発生し、我々の生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼします。

図 1 は、利根川の最大流量と最小流量を比較したのですが、河川流量の変動の幅が非常に大きいことが見てとれます。また、我々が日常使っている水の利用量は、最小流量をはるかに上回っており、貯水池としてのダムが人々の生活を支えていることがうかがえます。

また、森林の面積が国土の約2/3を占める我が国において、主として河川の氾濫域で生活が営まれ、高度に土地利用されているという社会的特性もあります。

治水対策を行っていくにあたっては、個々の河川や地域の特性を踏まえて、堤防や遊水地、ダムなどを総合的に検討し、最も適切な組み合わせで実施することが必要ですが、こうした自然的、社会的条件を背景に持つ我が国において

図 - 1

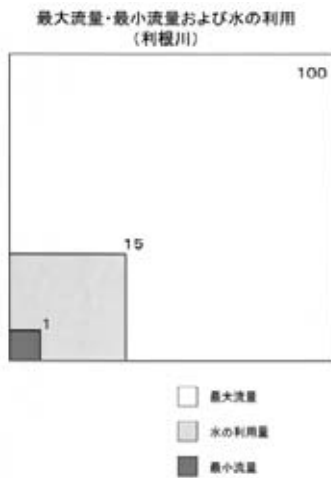
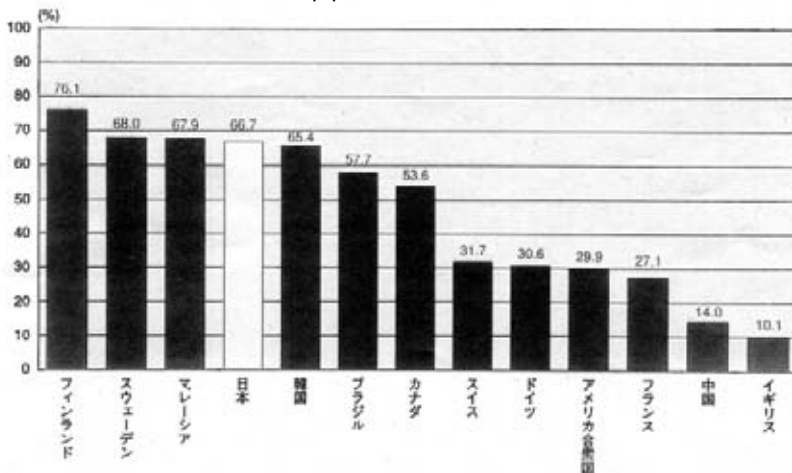


図 - 2



出典：経産庁統計局編「世界の統計1990年版」

は、洪水を防御し、水不足に対し有効なダムは、治水・利水上、有力な選択肢の一つであると言えるでしょう。

2 「緑のダム」とは

近年、森林の持つ保水機能や水源涵養機能を「緑のダム」として発揮することにより、従来のダムによる治水、利水機能の代替を図るべきとする主張が多く聞かれます。

実際、我が国は世界でも有数の森林大国であり(図 2)、近年の約百年間の森林面積の推移をみても、高度経済成長期を通じて著しい都市化が進んだにも関わらず、その面積はほとんど

図 - 3

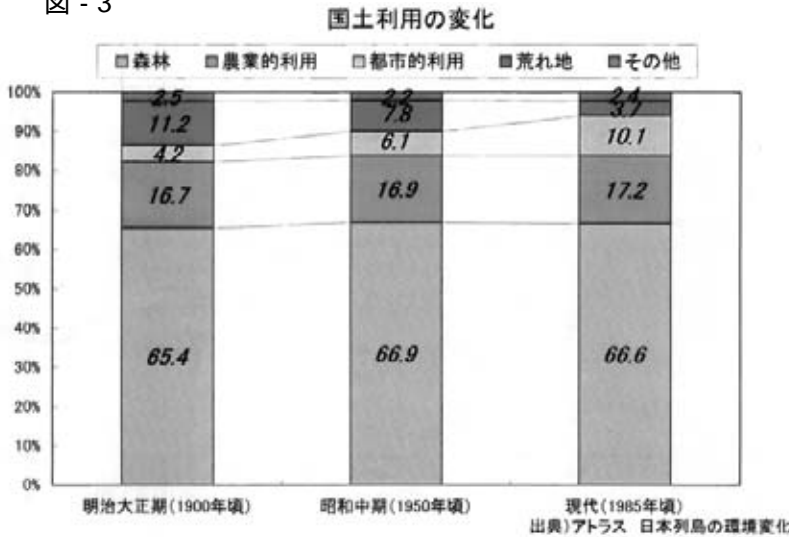
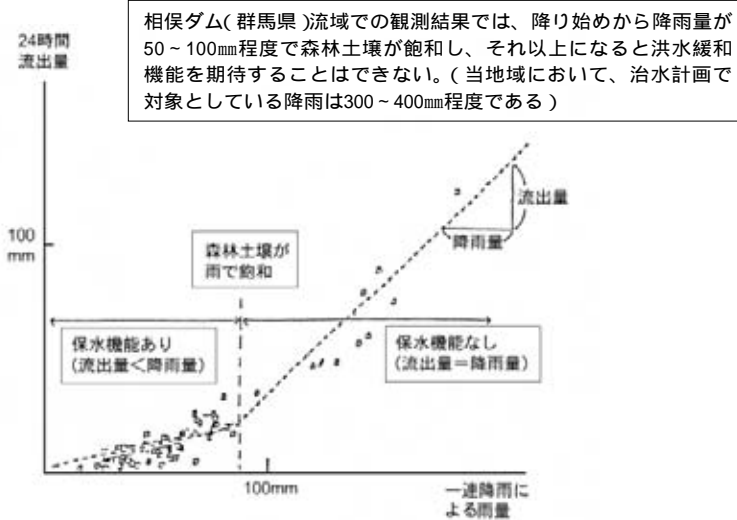


図 - 4



岡本芳美：日本列島の山林地流域における降雨の流出現象に関する総合的研究

ど変わらず、現在も森林が保全されているといえます(図 3)。

また、森林は木材の生産のみならず多様な機能を有しており、その保全が将来にわたり必要なことは論を待たないところです。

しかし、果たして「緑のダム」だけで本当の洪水の被害を防止し、渇水の被害を緩和できるのかということについては、科学的な見地から改めて検証すべきことであると考えられます。

3 森林の持つ機能

既に述べたとおり森林は多様な機能を有しており、これらの機能が複合的に発揮されるのが

一般的です。しかし、その機能には自ずと限界があり、必ずしも定量的に評価され得ていないのが現状です。

治水・利水に係る森林の機能としてまず挙げられるのは、その保水機能です。一般に森林は(森林土壌を含めて)都市的土地利用がされている、あるいは裸地などの状態と比べて降雨を一時的に貯留し、徐々に河川等へ流出させる機能を有しています。このことを指して、森林は洪水を防ぎ渇水を緩和するものと言われていますが、これらの機能はどういった状態で機能するのでしょうか。

4 森林機能と洪水

降雨が継続すると、雨は地表に達し中に浸透したものは徐々に河川へと流出していきま

す。地表の浸透能が低い場合(都市化されアスファルトに覆われている等)は、降雨が直に表面流出する量が増し、洪水時のピーク流量が増大する傾向にあります。

一方、森林域においては、降雨はまず樹木により遮断され、さらに森林土壌に蓄えられ徐々に流出します。しかし、常にこうした状態が継続するわけではなく、雨が降り続けば森林土壌の飽和とともに地表面から直接流出する量が増し、森林の保水機能は十全に発揮できない状態になります(図 4)。

つまり、治水計画で対象とし、洪水被害を生させるような大雨が継続するような状態では、森林の機能に限界が生じ十分に発揮できなくなるということです。

(以下、次号)

編集メモ

水が恋しい季節となり、7月下旬には全国的に森と湖に親しむ行事が行われます。お誘い合わせの上、時に本誌を持って近くのダムにウォーキング、森林浴を楽しみましょう。

梅雨、そして台風のシーズンになっています。生き物には恵みの雨でありながら、時に豪雨が私たちの生活に被害をもたらします。異常気象がいわれる中、自分たちの身の回りや、ダムや森、流域の全体にと気を配りましょう。

苦田ダム定礎式挙行

5月13日、中国地方整備局が、岡山県苦田郡奥津町の吉井川水系吉井川に建設中の苦田ダムで、地権者、行政関係者等約500人の出席のもと定礎式が行われた。岡山県知事ら多数の来賓から挨拶と祝辞があった。

苦田ダムは、洪水調節、河川環境の保全、かんがい用水、水道・工業用水の供給、発電を目的とする総貯水容量8410万m³の重力式コンクリートダムであり、平成16年度の完成を目指す。完成後は岡山県の実生活、農業及び産業の基盤として地域に大きく貢献することが期待されている。



福井ダムまつり

5月13日、徳島県阿南市の地域の活性化を図るとともに、森林やダムの役割を一般の方々に良く理解してもらうことを目的に、「第5回福井ダムまつり」が行われた。

ダムサイトの特設ステージではバンドや太鼓の演奏、阿波踊り、ダム公園会場では地元PTAと商店会による模擬店の出店、ダム周辺を使ったダムクイズスタンプラリー、公園内の噴水池では「あめごと」と「ウナギ」のつかみ取り（小学生以下限定）、ダム湖ではブラックバス釣り大会（中学生以下限定）等が多彩に実施された。

当日は雲一つない快晴に恵まれ、約1000人の参加者でにぎわった。



灰塚ダム起工式挙行

5月19日、中国地方整備局江の川総合開発工事事務所が江の川水系下川に建設を進めている灰塚ダムで、地元関係者、行政関係者等約1000人の出席のもと盛大に起工式が行われた。



灰塚ダムは、洪水調節、既得用水の安定化・河川環境の保全、及び水道用水の供給を目的とした多目的ダムである。昭和49年から実施計画調査を開始し、同63年度より建設事業に着手。

現在は、ダム建設によって水没する県道等付替道路工事を進めており、一部供用開始している。また、川の流れを迂回させる転流工事も平成12

吉野川水源の森交流事業

年11月に完了し、ダム本体工事に向けての準備を整えてきた。

香川用水や水についての認識を深めるとともに、水源地域との交流の促進に資するため、香川県内の主として中学1年生を対象に、早明浦ダム、池田ダムをはじめとする香川用水の水源を巡る見学会を実施、併せて吉野川水源の森交流事業に参加し、早明浦ダム湖周辺の植樹を行っている。

5月21日、高松市立一宮中学校の先生・生徒及び嶺北5ヶ町村関係者約190人が早明浦ダム上流右岸約1km地点で、カシ、コナラ、アオキ等の広葉樹1200本の植樹を行った。

